

II 教室の記録

1. 略年史

- 1949年 2月 村松繁樹、日地出版社会地理協会関西支部3階に地理学教室開設の準備を始める。
- 1949年 4月 大阪市立大学法文学部創設。
- 1949年 6月 開学式挙行、授業は道仁校舎（元道仁小学校、南区錦屋町12）で行われる。
- 1949年 11月 「人文研究」（大阪市大文学会発行）の創刊。
- 1950年 4月 地理学第1期生大学入学、法文学部第2部の開設。
- 1951年 7月 明治校舎（元明治小学校、西区阿波座中通2-16）へ移転。
- 1953年 4月 法文学部改組、文学部の新設。
- 1954年 3月 地理学専攻第1期生（4名）卒業。
- 1954年 4月 大学院文学研究科修士課程認可、地理学専攻第1期生入学。
- 1955年 9月 杉本学舎米軍より全面返還。
- 1956年 3月 大学院修士課程地理学専攻第1期生修了（2名）。
- 1957年 4月 第2部の修学年限が4年から5年に変更。
- 1961年 4月 文科系研究棟（4階）へ移転。
- 1964年 4月 大学院文学研究科地理学専攻博士課程認可。
- 1964年 6月 同上博士課程第1期生入学。
- 1969年 4月 文学部学科編成改組により、史学地理学科地理学専攻となる。
- 1973年 4月 文科系研究棟（1階）へ移転。
- 1986年 4月 文科系研究棟（4階）へ移転。
- 1994年 10月 文科系増築棟（2・3階）へ移転。
- 1995年 10月 文科系研究棟改修完了
- 1998年 4月 文学部学科編成改組により、人間行動学科地理学コースとなる。
- 1999年 4月 文化人類学担当専任教員着任。

2. 教員の異動（年は西暦2ケタ）

①専任教員（着任順）

旧教員

氏名	着任年月日	退任年月日	退任時の職名
村松繁樹	49. 4. 1	69. 3. 31	教授（物故）
木村 宏	49.10.31	63. 3. 31	助手
川喜田二郎	50. 1. 31	60. 3. 31	助教授
君塚 進	50. 2. 15	56. 3. 31	助手（物故）
岩田慶治	51. 4. 1	71. 9. 30	教授
水津一朗	52. 4. 1	59. 3. 31	助教授（物故）
渡辺久雄	53. 3. 31	71. 3. 31	教授（物故）
藪内芳彦	59. 4. 1	75. 3. 31	教授（物故）
春日茂男	61. 4. 1	86. 3. 31	教授
中村泰三	64. 4. 1	96. 3. 31	教授
服部昌之	71. 4. 1	93. 3. 31	教授（物故）
小林 博	72. 4. 1	84. 3. 31	教授
石川義孝	85. 4. 1	95. 3. 31	助教授

現教員

氏名	着任年月日	現在の職名
平野昌繁	70. 4. 1	教授
山野正彦	75. 4. 1	教授
大場茂明	86. 4. 1	助教授
月原敏博	93. 4. 1	講師
水内俊雄	95. 4. 1	助教授
富田和暁	96. 4. 1	教授
橋爪紳也	99. 4. 1	助教授

②兼担教授（大阪市立大学理学部教員による兼担）

氏名	在任期間
梅棹忠夫	54（学部）
吉良龍夫	54～81（大学院）
池辺展生	56～72（大学院）
藤田和夫	62～83（学部・大学院）
粉川昭平	84～85（大学院）

③非常勤講師（来任順）

（地理学専攻・学部専門科目及び大学院科目担当者）

氏名	在任期間	氏名	在任期間
織田武雄	53～61, 63, 66	須原美士雄	82
藤岡謙二郎	53～56, 75	河野通博	82
森 鹿三	53～55	高橋真一	83
森 三蔵	53, 54	久武哲也	83, 98
長谷川寛治	53～56	千田 稔	84
西村睦男	57, 58	池野 茂	84
Axel Sjöme	58	淡野明彦	85
水山高幸	60, 61	秋山道雄	86
山崎禎一	60	高山龍三	86
海野一隆	63, 64	吉越昭久	87
野間三郎	65	熊谷圭知	88
松田 信	66, 72	加藤恵正	89
村上政嗣	67, 68	神前進一	90
武久義彦	69	野澤秀樹	90
杉本尚次	70, 74, 96	伊藤 理	91
浮田典良	73	長谷川孝治	92
古藤田一雄	73	高橋 学	93
応地利明	74	服部昌之	93, 94
水越允治	75	藤卷正己	94
橋本征治	76, 81, 85	金坂清則	95
青木伸好	77	杉浦芳夫	95
石田 寛	77	中村泰三	96
日下雅義	78	梅原弘光	97
塚田秀雄	78	水田義一	97
末尾至行	79	溝口常俊	98
藤田佳久	79	松本博之	99
山田 誠	80	田和正孝	99
坂本英夫	81	堤 研二	99

3. 海外出張の記録（年月、年は西暦2ケタ）

氏名	期間	行先
岩田慶治	57. 9～58. 5	タイ
村松繁樹	57. 11～58. 11	U. S. A.、イギリス他西欧
川喜田二郎	58. 6～58. 12	ネパール
藪内芳彦	60. 6～60. 11	トンガ
岩田慶治	61. 9～62. 3	タイ他東南アジア
村松繁樹	64. 5～64. 10	欧州、U. S. A.
岩田慶治	64. 10～65. 4	ベトナム他東南アジア
藪内芳彦	65. 7～65. 11	西サモア
渡辺久雄	66. 3～66. 6	欧州、北米
岩田慶治	66. 7～66. 8	ラオス他東南アジア
村松繁樹	66. 7～66. 8	マレーシア、タイ他東南アジア
村松繁樹	67. 7～67. 9	マレーシア、タイ他東南アジア
藪内芳彦	67. 7～67. 8	マレーシア、タイ
岩田慶治	67. 11～68. 3	タイ、マレーシア他東南アジア
村松繁樹	68. 7～68. 9	タイ、マレーシア他東南アジア
藪内芳彦	68. 7～68. 9	マレーシア
岩田慶治	68. 10～69. 4	マレーシア、タイ他東南アジア
藪内芳彦	71. 3～71. 6	欧州、インド、セイロン他
春日茂男	74. 8～74. 11	イギリス、西ドイツ、U. S. A.
小林 博	76. 7～76. 9	ソ連、西ドイツ、欧州
中村泰三	76. 7～76. 9	ソ連、ルーマニア、ブルガリア
小林 博	77. 10～78. 1	カナダ、西ドイツ
中村泰三	78. 3～79. 3	U. S. A.、ユーゴスラビア、イギリス他
服部昌之	79. 3～79. 8	U. S. A.、西ドイツ他
平野昌繁	81. 7～82. 7	西ドイツ、イギリス、U. S. A.
山野正彦	82. 7～82. 11	スリランカ、インド
小林 博	83. 3～83. 6	西ドイツ、イギリス、イタリア
山野正彦	83. 11～83. 12	スリランカ
春日茂男	84. 9～84. 12	イギリス、オーストリア、西ドイツ、トルコ
中村泰三	85. 8～85. 8	ソ連
平野昌繁	85. 9～85. 10	イギリス
山野正彦	86. 7～87. 3	アメリカ、カナダ、西ドイツ、スリランカ
中村泰三	87. 1～87. 2	ソ連
中村泰三	88. 8～88. 9	ユーゴスラビア、ブルガリア、トルコ

山野正彦	90. 3~90. 4	中華人民共和国
石川義孝	90. 8~90. 8	オーストリア、イギリス
服部昌之	91. 3~91. 6	ドイツ連邦共和国
中村泰三	92. 7~92. 8	ブルガリア
大場茂明	92. 8~92. 9	ドイツ連邦共和国
山野正彦	92. 8~93. 7	中華人民共和国
中村泰三	93. 6~93. 7	ロシア
月原敏博	93. 8~93. 9	ネパール、ブータン
月原敏博	94. 7~94. 9	マリ、ブルキナファソ
大場茂明	95. 2~95. 3	ドイツ
水内俊雄	95. 7~95. 9	トルコ、ドイツ
月原敏博	95. 7~95. 9	インド
山野正彦	96. 3~96. 6	中華人民共和国
水内俊雄	96. 8~96. 8	オランダ、トルコ
月原敏博	96. 7~96. 9	マリ
大場茂明	97. 3~98. 3	ドイツ、ハンガリー
月原敏博	97. 9~97. 9	インド、ブータン
月原敏博	97. 11~98. 1	ニジェール
月原敏博	98. 7~98. 9	インド、イラン
平野昌繁	98. 8~98. 8	アメリカ合衆国
平野昌繁	98. 12~98. 12	アメリカ合衆国
水内俊雄	99. 1~99. 1	大韓民国
月原敏博	99. 7~99. 11	インド、エチオピア、マリ
平野昌繁	99. 12~99. 12	アメリカ合衆国

[注] 教員の海外調査等は上記以外にも多少あると思われるが海外出張抜以外のものは割した。

4. 実習調査地一覧

以下は学部専門科目「地理学実習Ⅱ」（当初は演習と称する）における調査地を掲げたものである。この他にも教員・学生による野外調査は数多いが今回は割愛した。

- 1950年 奈良県山辺郡二階堂村（現・天理市二階堂）
- 51 奈良県山辺郡二階堂村（現・天理市二階堂）
- 52 富山県東礪波郡鷹栖村（現・礪波市鷹栖）
- 53 富山県東礪波郡鷹栖村（現・礪波市鷹栖）及び富山県東礪波郡平村
- 54 富山県東礪波郡鷹栖村（現・礪波市鷹栖）及び富山県東礪波郡平村
- 55 富山県礪波市出町
- 56 富山県礪波市周辺一帯
- 57 富山県礪波市周辺一帯
- 58 鳥取県、島根県、山口県
- 59
- 60 兵庫県三田市母子ほか
- 61 兵庫県美嚨郡吉川町ほか
- 62 兵庫県相生市、赤穂市
- 63 鳥取県鳥取市、八頭郡一帯
- 64 鳥取県八頭郡佐治村、鳥取市湖山町
- 65 鳥取県東伯郡東郷町、北条町
- 66 ①富山県礪波市、②和歌山県西牟婁郡串本町大島、③和歌山県海南市、
徳島県徳島市ほか
- 67 鳥取県東伯郡三朝町
- 68 鳥取県東伯郡三朝町
- 69 兵庫県西宮市塩瀬町
- 70 兵庫県多紀郡篠山町（現・篠山市）
- 71 兵庫県多紀郡篠山町（現・篠山市）
- 72 福井県丹生郡越前町
- 73 大阪市東区
- 74 滋賀県犬上郡多賀町
- 75 奈良県宇陀郡室生村
- 76 大阪府南河内郡千早赤坂村千早
- 77 大阪市北区、東区
- 78 岡山県阿哲郡神郷町高瀬
- 79 滋賀県草津市
- 80 大阪市豊能郡豊能町
- 81 奈良県山辺郡都祁村

- 82 大阪府南河内郡美原町
- 83 高知県長岡郡大豊町
- 84 岡山県新見市豊永
- 85 和歌山県有田郡湯浅町
- 86 和歌山県御坊市
- 87 和歌山県御坊市
- 88 岡山県小田郡美星町
- 89 和歌山県田辺市
- 90
- 91 徳島県美馬郡脇町
- 92 徳島県美馬郡脇町
- 93 徳島県美馬郡脇町
- 94 徳島県美馬郡脇町
- 95 徳島県美馬郡脇町
- 96 徳島県美馬郡脇町
- 97 和歌山市
- 98 和歌山市、和歌山県西牟婁郡白浜町、徳島県海部郡牟岐町
- 99 徳島県海部郡牟岐町、大阪府下

5. 教室巡検行先一覧

大学紛争の一段落した 1972 年から、春季は新専攻生の歓迎をも兼ねた、大阪周辺の日帰り巡検、秋季は簡単なフィールドワークを兼ねた 2泊3日程度の観光旅行を実施するようになった。以下はその行先の一覧である。

	春季	秋季
1972 年	泉北ニュータウン、狭山町	徳島、穴喰、甲浦
73	池田、能勢	三次、帝釈峡、蒜山
74	学園前、生駒、石切	遠江二俣、牧ノ原、御前崎
75	三木、西明石	松阪、南高町、尾鷲
76	貝塚、泉佐野	郡上八幡、越前大野
77	大和郡山、天理	駒ヶ根、諏訪、原村
78	上町台地	出雲横田、島根半島、弓ヶ浜
79	太子町、富田林	下関、筑豊炭田、久住高原
80	宇治、伏見	甲府、勝沼、身延
81	相川、吹田、千里山	苫小牧、小樽
82	和歌山市北部	伊良湖、知多半島、豊田
83	神戸	礪波、五箇山、富山
84	橿原	鳥取、米子
85	大津	会津若松、磐梯
86	千早赤坂村	柳川、佐世保、有田、平戸
87	堺	伊豆
88	泉佐野	宇部、山口、秋吉台、萩
89	大東、東大阪、門真	北陸
90	橋本、五條	北四国
91	京都、伏見	信州、長野、松本
92	宝塚	熊本、阿蘇
93	富田林	群馬、栃木
94	奈良	鹿児島
95	大阪市内	秋田、大館、小坂
96	神戸	筑豊、福岡、北九州、熊本、柳川
97	泉大津、岸和田、貝塚、泉佐野	川崎、横浜、横須賀、三浦
98	大津、山科	広島、岩国、呉、江田島
99	西宮、灘、宝塚、尼崎	三島、静岡、御殿場、熱海